
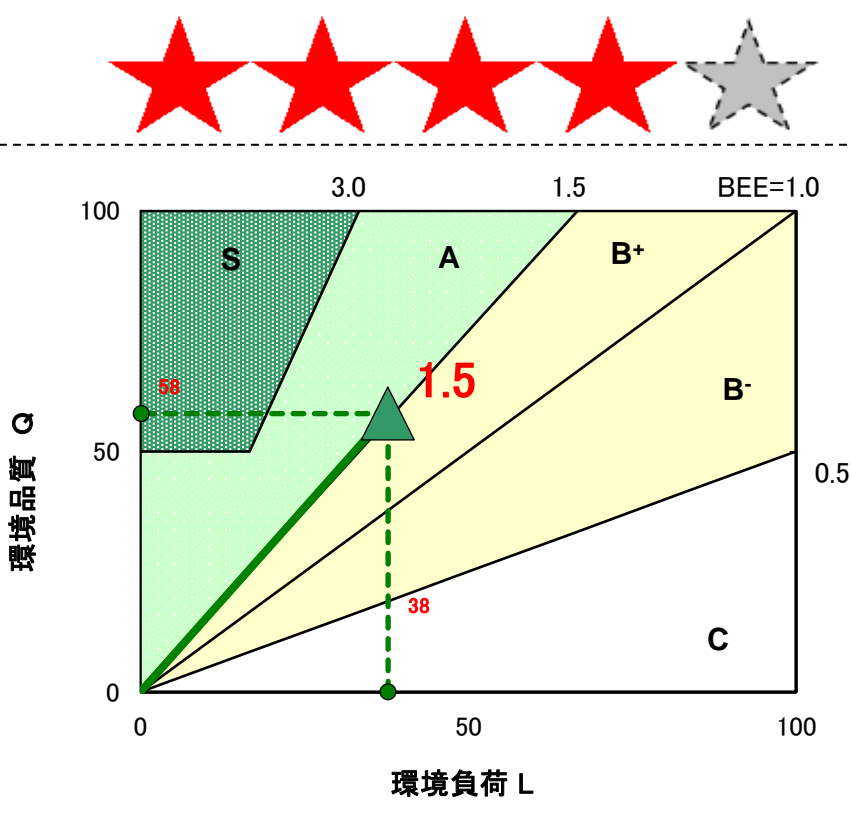


CASBEE® 熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要				■ 外観	
建物名称	JASM (FAB棟・CUP棟)	階数	地下2F,地上4F		
建設地	熊本県菊池郡菊陽町大字原水字上	構造	SRC造		
用途地域	指定無し(市街化調整区域)	平均居住人員	50 人		
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年		
建物用途	事務所,工場,	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2023年12月 予定	評価の実施日	2022年3月14日		
敷地面積	213,339 m ²	作成者	高橋 幸成		
建築面積	49,928 m ²	確認日	2022年3月14日		
延床面積	226,423 m ²	確認者	高橋 幸成		

1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)



環境品質 Q

環境負荷 L

BEE = 1.5

■ BEE (環境効率) = $\frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$


■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B+	★★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B-	★★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO₂ 排出性能評価基準

判定値 (排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

■ ライフサイクルCO₂排出性能 (ランク表示)



排出率

84%

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価



評価点

88

【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進

【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現

【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全

【重点事項4】 循環型社会の実現

評価点

94.0

82.5

75.0

93.0

■ 熊本県重点評価基準

判定値 (評価点)	ランク表示
100点以上	
80点以上100点未満	
60点以上80点未満	
40点以上60点未満	
40点未満	

※評価点は、100点以上が推奨です。

CASBEE® - 建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	JASM (FAB棟・CUP棟)	階数	地下2F,地上4F
建設地	熊本県菊池郡菊陽町大字原水字上	構造	SRC造
用途地域	指定無し(市街化調整区域)	平均居住人員	50人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	事務所,工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年12月 予定	評価の実施日	2022年3月14日
敷地面積	213,339 m ²	作成者	高橋 幸成
建築面積	49,928 m ²	確認日	2022年3月14日
延床面積	226,423 m ²	確認者	高橋 幸成



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.5

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%
②建築物の取組み 84%
③上記+②以外の 84%
④上記+ 84%

(kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.3

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.2

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.6

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 3.1

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.4

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.2

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.8

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.4

3 設計上の配慮事項

重点事項総合評価 評価点 = 88

重点事項1: 温室効果ガス排出量削減の推進 評価点 = 94.0	重点事項2: 安全安心で暮らしやすい社会の実現 評価点 = 82.5
重点事項3: 県の地域資源の有効活用と保全 評価点 = 75.0	重点事項4: 循環型社会の実現 評価点 = 93.0

重点事項の評価(レーダーチャート)

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE[®] 熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

敷地周辺に配慮し、敷地境界沿いは全面的に緑化を行っている。
節水器具を積極的に採用し、環境負荷の低減に配慮した建物である。

Q1 室内環境

- ・ 告示対象外又はF☆☆☆☆の建築材料を使用

Q2 サービス性能

- ・ 光・メタルの引込、精密機器の地下空間への設置回避、UHF・BS・CSを採用
- ・ OAフロア・ラックの採用により、構造部材と仕上げ材を傷めずに更新・修繕ができる。

Q3 室外環境（敷地内）

- ・ 敷地周辺の生物環境の立地特性の把握し、その特性にもとづいて敷地内の生物環境の安全と創出に係る計画方針
- ・ 生物環境の保全に配慮している。
- ・ 燃焼設備を設置しないことで、温熱環境の向上に配慮している。。

LR1 エネルギー

- ・ LED照明等の高効率な設備機器を導入している。

LR2 資源・マテリアル

- ・ 節水器具の採用により、水資源保護に配慮している。
- ・ 材料使用量の削減を採用する。

LR3 敷地外環境

- ・ 燃焼機器の使用を避けて、大気汚染防止に配慮している。
- ・ 屋外サイン照明を設置しない等、周辺への漏れ光に配慮した屋外照明計画としている。

その他

CASBEE-建築(新築)2016年版
JASM(FAB棟・CUP棟)

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質										3.3
Q1 室内環境							0.30			3.2
1 音環境						3.3	0.15	-	-	3.3
1.1 室内騒音レベル						3.0	0.40	3.0	-	
1.2 遮音						3.4	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能		Dr=4.4				3.0	0.60	3.0	-	
2 界壁遮音性能						4.0	0.40	3.0	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						3.0	-	3.0	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						3.0	-	3.0	-	
1.3 吸音		床、壁、天井のうち、二面に吸音材の使用がある。				4.0	0.20	3.0	-	
2 温熱環境						2.6	0.35	-	-	2.6
2.1 室温制御						3.5	0.50	-	-	
1 室温						3.0	0.38	3.0	-	
2 外皮性能		窓/SC:0.36、U値:3.37、外壁/U値:0.61				5.0	0.25	3.0	-	
3 ゾーン別制御性		大まかなゾーニング、冷房・暖房は切り替え				3.0	0.38	-	-	
2.2 湿度制御						3.0	0.20	3.0	-	
2.3 空調方式						1.0	0.30	3.0	-	
3 光・視環境						3.1	0.25	-	-	3.1
3.1 昼光利用						3.6	0.30	-	-	
1 昼光率		昼光率≥2.0%				4.0	0.60	3.0	-	
2 方位別開口						-	-	3.0	-	
3 昼光利用設備						3.0	0.40	3.0	-	
3.2 グレア対策						3.0	0.30	-	-	
1 昼光制御						3.0	1.00	3.0	-	
3.3 照度						3.0	0.15	3.0	-	
3.4 照明制御						3.0	0.25	3.0	-	
4 空気質環境						4.0	0.25	-	-	4.0
4.1 発生源対策						4.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質		建築基準法を満たす、ほぼ全面的(70%以上)				4.0	1.00	3.0	-	
4.2 換気						4.0	0.30	-	-	
1 換気量		中央管理方式、換気量は30m³/h人である。				4.0	0.33	3.0	-	
2 自然換気性能						3.0	0.33	3.0	-	
3 取り入れ外気への配慮		給気は、各種排気と異なる方位の位置、6m以上				5.0	0.33	3.0	-	
4.3 運用管理						4.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視		手動による計測、必要最低限の記録				3.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御		ビル全体が禁煙				5.0	0.50	-	-	
Q2 サービス性能						-	0.30	-	-	3.6
1 機能性						2.6	0.40	-	-	2.6
1.1 機能性・使いやすさ						3.0	0.40	-	-	
1 広さ・収納性						3.0	0.33	3.0	-	
2 高度情報通信設備対応						3.0	0.33	3.0	-	
3 バリアフリー計画						3.0	0.33	-	-	
1.2 心理性・快適性						1.3	0.30	-	-	
1 広さ感・景観						1.0	0.33	3.0	-	
2 リフレッシュスペース						2.0	0.33	-	-	
3 内装計画						1.0	0.33	-	-	
1.3 維持管理						3.5	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		①・②、③・④、⑥、⑦、⑩				4.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保						3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性						3.8	0.30	-	-	3.8
2.1 耐震・免震・制震・制振						4.2	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		建築基準法等に定められた25%増の耐震性を有する(I=1.25)				4.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能		HIDAMを導入する。				5.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数						3.2	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数						3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						3.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔						3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		上位3種の2種類以上にC以上を使用				4.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔						3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性						3.8	0.20	-	-	
1 空調・換気設備						3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備		節水型器具、2基の水槽を分離して設置、井水・中水の利用				4.0	0.20	-	-	
3 電気設備		①、②、③、④、⑤				5.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法		耐震クラスA				4.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備						3.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性			4.7	0.30	-	-	4.7
3.1 空間のゆとり			4.6	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	階高3.9m以上	5.0	0.60	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率:0.1~0.3	4.0	0.40	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり		床積載荷重:事務室 15000N/m ² 以上	5.0	0.30	3.0	-	
3.3 設備の更新性			4.6	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性	基本的に露出配管なので、仕上げを傷めずに更新が可能	5.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性	構造部材や仕上げ材の撤去は不要	5.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	構造部材や仕上げ材の撤去は不要	5.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	構造部材や仕上げ材の撤去は不要	5.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性	更新に対応した仮設スペース、バックアップによる機能の維持	4.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保	計画的に確保されている	4.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.40	-	-	3.1
1 生物環境の保全と創出		テーマへの配慮、比較的多くの取り組み	4.0	0.30	-	-	4.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			2.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.4
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.2
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI=0.56	5.0	0.00	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.12	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = 0.78	3.2	0.62	-	-	3.2
4 効率的運用			3.5	0.25	-	-	3.5
集合住宅以外の評価			3.5	1.00	-	-	
4.1	モニタリング	レベル3に加え、主要な用途別エネルギー消費の内訳を把握	4.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.8
1 水資源保護			3.7	0.20	-	-	3.7
1.1 節水		自動水栓に加えて、省水型機器を過半以上に採用	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.6	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無	2種類以上の再利用水設備(工業用水・凝縮水)	5.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.7	0.60	-	-	3.7
2.1 材料使用量の削減		鋼材F325以上、PC板、機械式継手、BCP材、捨て型枠	5.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		東リ・リノテスタ、吉野石膏・ソーラトン	4.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取り組み		躯体と仕上げ材が容易に分別、再利用できるユニット部材	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			4.5	0.20	-	-	4.5
3.1 有害物質を含まない材料の使用		建材種別が4つ以上	5.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			4.3	0.70	-	-	
1	消火剤	不燃性ガス(N2ガス)	4.0	0.33	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	ODP<0.01、GWP<50	5.0	0.33	-	-	
3	冷媒	ODP=0、かつGWP<50	4.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.4
1 地球温暖化への配慮		LCCO2排出率70%	3.6	0.33	-	-	3.6
2 地域環境への配慮			3.5	0.33	-	-	3.5
2.1 大気汚染防止		敷地内に燃焼機器を設置していない。	5.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	適切なスペース、サービス車両等の施設、導入路の工夫	4.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	0.33	-	-	
2	振動		3.0	0.33	-	-	
3	悪臭		3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.7	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	チェックリストの過半を満たす、配慮事項の一部を満たす	4.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	

熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称 JASM (FAB棟・CUP棟)

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2017年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点	88	
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				94	0.40	37.60
Q1-2.1.2	外皮性能	5.0	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.05			
Q1-3.2.1	昼光制御	3.0	0.05			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	5.0	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	3.2	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	5.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	4.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				82.5	0.20	16.50
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	4.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	4.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.5	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				75	0.20	15.00
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.20			
LR2-1.1	節水	4.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	2.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				93	0.20	18.60
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.2	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	4.7	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	4.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数